

生物多様性

くまもとCだより

第8号！
(R3年冬)

令和3年12月24日発行
発行元：熊本市環境局
環境推進部 環境共生課
TEL：096-328-2352

熊本市は平成28年3月、「熊本市生物多様性戦略～いきもんつながる くまもとCプラン～」(Cプラン)を策定しました。これは、私たちのまちや暮らしを自然と寄り添いながら、魅力的にしていこうための計画。だけど、「そもそも生物多様性ってなに？」…基礎的なことから最近の話題までをお知らせする「生物多様性くまもとCだより」第8号をお届けします！

生物多様性の次期国際ルールが議論されています

2010年名古屋で行われた第10回締約国会議(COP10)にて設定された国際的な目標は、10年後の2020年、中国で新たに決定される予定でした。しかし、コロナ禍によって交渉は遅れており目標はそのまま期間延長となっています。この秋、次期生物多様性にかかわる国際交渉が始まりました。国連生物多様性条約(CBD)の第15回締約国会議(COP15)が2021年10月に行われ、次は2022年4～5月に行われます。この会議で2030年までの世界の目標が決定されるのです。

このCOP15の目標を基に、国の基本方針となる「生物多様性国家戦略2012-2020」に代わる次の国家戦略が策定されます。その後、熊本市の基本方針「熊本市第1次生物多様性戦略2016-2020」も新しい「次期生物多様性戦略」として策定されることになります。その時期は2024年3月末ぐらいの予定です。

特 定 外 来 生 物

ア ラ イ グ マ

なぜ 防除が急がれるの？

熊本市内では、平成22年に南区で1頭が確認されて以降、平成29年度は3件、平成30年度に9件、令和元年度に19件、令和2年度に44件のアライグマが確認されていて増加傾向にあります。今年度は既に24件の確認があり、4頭を捕獲しました。(2021.12.10現在)

これは、市民の方からの目撃情報や定点設置した自動撮影カメラにより確認された情報です。熊本市ではまだ明確なアライグマ被害は報告されていません。しかし、全国的には深刻な被害が出ています。

2021.10.22に
北区和泉町で捕獲されたアライグマ

アライグマは雑食性なため何でも食べてしまいます。果物や野菜、畜産飼料や人間の残飯までも餌にします。手先が器用で、ミカンは皮をむき、スイカの中身だけくり抜いて食べてしまいます。また、水辺のカニ、養魚場での魚の捕獲、家畜の牛の乳首を噛み切る、ニワトリを食べるなどの被害もあります。天敵がおらず環境適応性が高く、神社仏閣、廃家、人家の屋根裏に侵入し住み着いたりします。

今後、アライグマの生息数が増えた場合、熊本市でも農林水産業被害、家屋侵入による糞尿など生活環境被害や生態系への被害の発生がとても懸念されています。アライグマを増やさないために、早期に分布状況を把握し、適切な防除が重要であり対応が急がれます。

現在、熊本市はアライグマ防除のために自動撮影カメラによる生息状況調査と箱わなによる捕獲調査を行っています。

詳しく知りたい方は
熊本市ホームページへ

『江津湖は私たちのそばに』 水前寺江津湖公園サービスセンター 尾崎友信

江津湖はひょうたん型をしており、上江津湖と下江津湖からなる河川膨張湖です。1日に40万トンの湧水があり、「日本一の地下水都市・熊本」を象徴する場所です。春は植物や昆虫、夏は水辺の生きもの、秋は紅葉、冬は野鳥などなど、さまざまな自然を体験できる場所でもあります。

水前寺江津湖公園サービスセンターでは、江津湖の自然を活かした子ども向けの自然学習イベント、「わくわくえづっ子塾」を毎月開催しています。

今年度は、春は生きもの観察会、夏はセミの羽化の観察会や夜の生きもの観察会、秋は落ち葉などを使ったイベント、冬はリースづくり、春の七草探し、野鳥観察会などを計画しています。

多く子どもたちが江津湖に親しみを持ってもらうイベントを実施しています。大人向けの植物観察会や野鳥観察会も実施しています。多くの人に江津湖の自然を身近に感じてもらい、江津湖に足を運んでもらうきっかけになることを目指しています。

また、ミズアオイやキタミソウなどの絶滅危惧種の保全にも取り組んでいます。専門スタッフの江津守(えづもり)を配置するとともに、市民ボランティアとも連携して、市民協働での保全活動を行っています。

江津湖の豊かな自然を活用し、多くの人たちに愛される江津湖を目指しています。

水前寺江津湖公園サービスセンター ホームページ <http://www.ezuko-park.com/>

いきもん ネット

「くまもとCひと・まち・いきもんネットワーク」(以下「いきもんネット」とは、生物多様性の保全や持続可能な利用に関する自主活動に取り組む市民活動団体や事業者、学校、行政機関などが情報を共有して、お互いに連携・協働し、活動等の情報を発信するネットワークです。

熊本市には、生きものや豊かな自然を守り、未来へ引き継ぐために生物多様性の保全や自然資源の持続可能な利用に関する自主活動をしている方々がたくさんいらっしゃいます。

現在、15団体(約12,200人)の皆さんに登録いただいています。

野生生物調査、自然観察会の開催、生物多様性に配慮した緑化や環境作り、絶滅危惧種の保全や外来種対策、エコツーリズム等の活動をしています。

活動場所は、金峰山系、立田山、江津湖等の自然豊かな場所や市街地等の市内全域です。その他に熊本県内のいろいろな場所でも行われています。会員限定のもの、一般の方に参加を呼びかけているものもあり、年間を通してたくさんのイベントが開催されています。

熊本市の生きものや自然、生物多様性のために活動をしている団体や企業、学校の皆様、「いきもんネット」に登録をしてみませんか？

いきもんネット 検索

くまもといきもんノート

～金峰山の生物多様性～

20年ほど前、金峰山某所の丘のてっぺんにちょっとしたくぼみを見つけました。そこには少し水が溜まり、イノシシのぬた場（大型哺乳類が泥浴びをする場所）になっていました。

付近に水脈はないので、溜まっているのは雨水です。イノシシが頻繁に泥浴びするからか、そのぬた場は深さも広さも年々拡大し、水もたっぷり溜まるようになりました。

カメラを仕掛けたところ、哺乳類が10種、鳥類は24種も確認できました。

何もない丘の上でイノシシが泥浴びを始めたことで水場ができ、そこにたくさんの動物が集まるようになったのです。人間への害ばかりが取り上げられがちなイノシシですが、思わぬところで生物多様性を創出していたのです。

ちなみに、発見から10年ほど経った頃、深くなったぬた場はとうとう粘土層を突破して水が溜まらなくなり、それと同時にここを訪れる動物の数も激減してしまいました。

（文・写真）熊本博物館学芸員 清水 稔



↑水が溜まっていた頃のぬた場にいる「アナグマ」



↑水が溜まらなくなり始めた頃ぬた場にいる「イノシシ」

熊本城備前堀の“生きもの捕獲”



網による捕獲

オオクチバスの捕食物

オオクチバス
(特定外来生物)



【捕獲した生きもの】

<在来生物>ギンブナ(19匹) トウヨシノボリ(89匹)
<外来生物>コイ(14匹) アメリカザリガニ(124匹)
ミシシippアカミミガメ(1匹)
オオマリコケムシ(1匹)
<特定外来生物>オオクチバス(168匹)

外来生物を拡げないために3つの原則

1. 入れない 2. 捨てない 3. 拡げない

私たち一人一人に適切な対応が求められます。

最後に…

「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。これらの生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きています。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。

令和3年11月17日、熊本城のお堀の水抜きが行われました。お堀は行幸坂の東側にある備前堀。熊本地震による崩落石の回収と石垣測量工事に備え、33年ぶりの水抜きです。

同時にお堀の生きもの捕獲も行いました。職員30名程で長い網を持ち、追い込んで捕える作戦で敢行！

2回の追込みで大小たくさんの魚等が捕獲できました。

その後、獲れたすべての生きものを仕分けしたところ、やはりほとんどが外来生物であり、中でもオオクチバスやアメリカザリガニの数は圧倒的でした。ここでも、その繁殖力の凄さが伺えました。

このお堀は、川などと繋がっていないため、元々はいなかった生きものが人の手により放流・放置され増えていったと考えられます。

捕獲した外来生物は外来生物法に基づき駆除し、在来種は坪井川へ放流しました。

また、熊本博物館・清水学芸員による解剖では、オオクチバスの捕食物はほとんどがアメリカザリガニであり、他に在来種のトウヨシノボリ、ヤゴも確認されました。

清水学芸員は「ブラックバスがいなければ、水生昆虫が多く生息するなど豊かな生態系だったかもしれない。」と。

近い将来、再びお堀に、水を入れて本来の望ましい生態系を取り戻し、市民にとって身近な自然や生きものを感じながら親しまれる場所となる日が待ち遠しいものです。

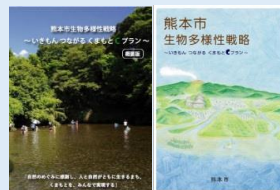
外来生物とは

生物本来の移動能力を超えて本来生息していなかった地域に持ち込まれた生物を外来生物といいます。

特定外来生物とは

外来生物の中で日本在来生物の生態系や、人の生命・身体、農林水産業などへ大きな影響を及ぼすおそれのある生物を特定外来生物として指定されています。その飼養、栽培、保管、運搬、販売、輸入、野外へ放つことが外来生物法で禁止されており、必要に応じて防除が行われます。

熊本市では、「熊本市生物多様性戦略 ～いきもん つながる くまもとCプラン～」を策定しております。



Cプラン！『熊本市生物多様性戦略』（左：本編、右：概要版）は、環境共生課で配布しておりますほか、熊本市ホームページからダウンロードも可能です。ぜひ一読ください！

くまもと Cプラン



～ 講座の流れ（イメージ）～



グループで企画を考える



企画案を整理・決定



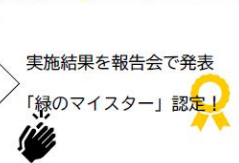
企画の発表準備



企画の発表



企画の実施



実施結果を報告会で発表
「緑のマイスター」認定！

緑のマイスター養成講座

ボランティア活動の方法やコミュニケーションの円滑な取り方などの知識を企画から実践まで学ぶ講座です。

今回はグループ毎にテーマを絞り、花壇整備や、立田山のオリジナル散策マップ作成を行いました。

みどりの検定1級合格者を対象に半年間にわたって「緑のマイスター養成講座」を開講しました。そして、令和3年9月に熊本市初となる「緑のマイスター」15名が誕生しました！

これから、地域の緑化に関する講師や緑化フェアでのボランティアリーダーなど、様々な場での活躍が期待されています。

緑のマイスターの活動紹介

緑のマイスター1期生9名、第2期緑のマイスター養成講座受講生5名が、市役所前のプランター14基の植栽活動を実施しました。参加者自らが、植え付ける花苗や球根を計画・デザインし、当日は既存の花苗の撤去や地拵え、花苗等の植え付けを実施しました。

今後どのように花々が開花し移り変わっていくのが楽しみです。お近くにお越しの際は、ぜひご覧ください。

